



## 立地総合研究所・ 関東地域政策研究センター 研究報告

# 地域プランニング研修の概要

—地域の産業・都市のより一層の発展を目指して—

く ぼ とおる  
久保 亨

一般財団法人 日本立地センター 立地総合研究所 主任研究員

## 1. 地域プランニングの必要性

いま、地域で検討されるさまざまな計画（プラン）の立案・策定では、地域と産業を取り巻く環境変化に対応し、地域産業活性化を図り、自立循環型地域を構築する方策が求められています。

地域が直面する「環境変化」は、◆「社会経済構造の変化」としては、少子高齢化、国内市場の縮小、格差拡大、資源・エネルギー制約等、◆「産業構造の変化」では、産業縮小、企業活動の停滞、地域雇用の不足等、また◆「地域構造の変化」では、都市縮小、公共投資の停滞、インフラ保全への対応等、多様な課題を抱えています。

このような課題に対応するためには、従来型の計画、施策の目標であった「成長力」「競争力」といった、拡大型の強化・支援策だけでは不十分であり、地域の実態に応じて、産業や地域の再生を進めて行く方策が必要です。そのためには、効率的な地域資源（自然、産業、人材、文化……）の活用と、その成果を地域で循環させるシステムの構築が不可欠です。

環境変化を的確に捉えて、「産業・地域の課題」を解決するには、地域において基本的な構造改変が必要になっています。従来の産業機能、都市機能を活かしながら、地域に過剰なものは縮減・廃棄し、確実に実行できる計画を地域が主体的に策定し、新たな地域を支える構造を実現するプラットフォームやプロジェクトの検討が急務であり、的確な「地域プランの策定・実行」が求められています。

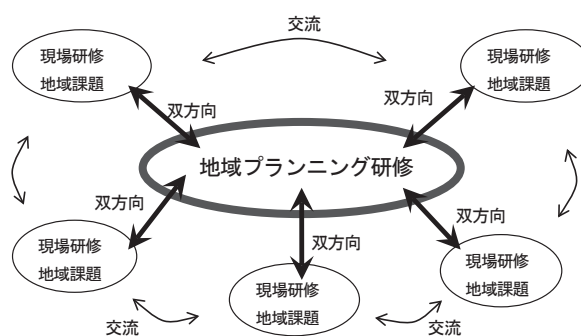
## 2. 地域プランニング研修とは

### 【地域プランナーとは】

「地域プランナー」は、地域が主体的に環境変化に対応し、課題の解決に向けて、新たな展開方向を見据えて、課題解決の道標となる「地域主体のプランニング」を構想する人材です。地域プランナーは、問題解決型のプロジェクトを構築する知識・経験を身につけ、行政、NPO、大学・研究機関、地域産業などに所属して、地域プランニングを実践する人材として活動します。

### 【地域プランニング研修とは】

「地域プランニング研修」は、自治体、関連支援機関、地域企業等の地域振興を担う実務者等を対象に、地域振興に係る計画・施策等の立案やプロジェクトの立ち上げ等の実現に資する「地域プランニング」能力を形成するための研修です。研修では、複数の検討分野を設定し、幅広い計画立案能力を育成・強化する研修カリキュラムを設定し実施しました。



地域プランニング研修のイメージ

今回の研修では、これからの地域振興に資する分野として、産業立地、まちづくり、地域分析、プランニングの実践等について、広く学ぶ研修を実施しました。また、研修参加者（地域振興担当者等）と関係者（講師、事務局他）、また、研修参加者相互の連携関係を構築し、今後の地域問題に対応する双方向の多層ネットワークの形成を目指しています。

#### 【地域プランニング研修により実現されるもの】

- ・地域課題の共通認識の形成。
- ・研修受講者の地域間交流ネットワーク形成。
- ・関係者、研修受講者の双方向の知識・知見の連携形成。
- ・関係者、研修受講者相互の情報交換、意見交換の促進。

### 3. 平成24年度「地域プランニング研修」の内容

#### (1)開催日程、内容

□前期研修：平成24年11月29～30日

【講師による座学と、受講者と講師との意見交換、情報交換】

□後期研修：平成25年2月15日

【前期受講者によるワークショップ形式の問題解決型の討議】

#### (2)研修カリキュラム

##### 【前期研修】

①地域の産業再生に向けた戦略的プランニングについて

東京大学大学院教授 松原 宏 氏

②都市再生に向けた戦略的プランニングについて  
東京大学大学院准教授 瀬田史彦 氏

③工業地の再編について

(株)都市産業研究所代表取締役 伊藤清武 氏

④統計データの地域分析への活用

日本立地センター研究員 加藤 譲

⑤地域の産業の再生プロジェクトの実践について  
日本立地センター主任研究員 久保 亨

⑥産業連携による新分野開拓と活性化への取組  
インダストリーネットワーク(株)

代表取締役 大橋俊夫 氏

⑦自立分散型プラットフォームによる地域の担い手づくり

NPO法人匠の町しもすわあきない

プロジェクト専務理事 原 雅廣 氏

##### 【後期研修】

①前期研修受講者、講師の参加による、ワークショップ研修

②受講者各自の地域課題の報告、問題意識、解決策などの報告

・〔テーマ1〕地域産業の状況と課題

・〔テーマ2〕地域の土地利用の状況と課題

③テーマ別のワークショップによる検討

・〔テーマ1〕地域産業の現状認識と対応方向

・〔テーマ2〕地域の土地利用の現状認識と対応方向

#### (3)研修概要

##### 1)研修参加者

- ・地方自治体担当者
- ・民間企業（地域振興担当者）

##### 2)参加者の問題意識

□参加者の動機

- ・新たな政策立案やプロジェクト立ち上げのマネジメント能力向上。
- ・施策立案の基礎的な知識、対処方法の習得。
- ・都市計画、まちづくりなどの仕組みについて総合的な学習。
- ・地域の課題である誘致を進める際の地域づくり手法。
- ・地域問題に対する的確な認識とさまざまな知識・知見の習得。

□参加者から提示された、産業やまちづくりにおける地域の課題

- ・地域の企業を応援し市内産業を盛り立てる仕組みづくり。
- ・少子高齢化、地域産業衰退（農業も含め）、税源不足に対応できる産業振興方法。
- ・中心市街地衰退、少子高齢化などに対応できる地域活性化方策、プロジェクト立案。
- ・行政の縦割りを超えて機能できる、まちづくり組織のあり方。
- ・地元企業や住民、行政が主導するエリアマネジ

メント組織による取組。

#### □研修当日に議論された課題

- ・国内産業は「立地調整」に入っており、産業再生、跡地利用等のプランニングが必要。
- ・都市政策は転換期であり、人口減少、都市縮小に対応できる、テーマ別プランが必要。
- ・今後、産業用地は減少傾向にあり、土地利用の見直しが重要。
- ・地域が自立し経済が循環するためには、多様な就労機会それを実現する産業が必要。
- ・ものづくりの現場は今後大きく変化し、必要なものを必要なだけ個別に作る時代に。
- ・ものづくりをまちなかに埋め込むことにより活性化が始まり、新たな機能が動き出す。
- ・企業誘致、伝統産業振興を進めてきたが、雇用不足・人材育成（高齢者、女性）が問題。
- ・産業導入だけでなく、文化（フィルムコミッション等）、スポーツ、観光など多様な取組が重要。

#### 3)前期研修の内容(講義の要点)

- ①地域の産業再生に向けた戦略的プランニングについて [松原講師]
  - ・地域経済の捉え方、成り立ち、地域経済分析の方法について、基礎的事項を確認。
  - ・東海道線沿線の工場の機能変化、工場跡地利用のあり方を事例に、立地調整を理解。
  - ・わが国の産業立地政策の変化を振り返るとともに、今後の政策的課題を考察。
- ②都市再生に向けた戦略的プランニングについて [瀬田講師]
  - ・地域政策（プランニング）転換期の変化要因として、グローバル化、人口減少、不安定時代の無謬性、民活・市場経済化が要点。
  - ・都市再生に向けたプランニングの重要点は、目的と対象をはっきりさせること、アウトカム達成のための誘導手段の導入。
  - ・誘導の例として、「空いた空間の利用促進」
- ③工業地の再編について [伊藤講師]
  - ・工業地形成の歴史を認識し、工業と都市の離反から融合へ展開する。
  - ・主要工業地区における再編の動き（川崎臨海部、北区・板橋区、大田区、都心白金、名古屋中川区、東大阪高井田、尼崎臨海部、京都西南部、大牟田）。
- ④統計データの地域分析への活用 [加藤]
  - ・工業地再編の方向は、「産業コミュニティ再生」、「地域イノベーション誘発」、「公共空間埋込」、「共同セクターの組成」等がポイント。
  - ・統計データ活用の必要性。
  - ・統計データ分析の長所、短所、限界。
  - ・地域分析に使われる主な統計データ。
  - ・地域分析への応用例の紹介。
- ⑤地域の産業の再生プロジェクトの実践について [久保]
  - ・地域再生の検討の視点は、地域の関係構造構築、産業集積の再編、地域循環・持続型産業構造構築と、これらを実現する再生事業の実施。
  - ・地域と産業の接点となる「産業コミュニティ」とは、生産と居住の共存、新たなものづくり現場、サービスとものづくりの連動、人材育成が要点。
  - ・地域再生プロジェクトの重要点は、安定的労働の創出、地域循環構造の形成、個の力（地域人材）重視の産業づくり。
- ⑥産業連携による新分野開拓と活性化への取組 [大橋講師]
  - ・目指してきたことは、「21世紀のものづくりのための新たな産業プラットフォーム」をつくり、さまざまなプロジェクトを行う。
  - ・多様なプロジェクトやビジネスを立ち上げ、大学研究機関との連携や企業努力と新たな発想による他分野のビジネス試作開発を展開してきた。
  - ・技術高度化のための人材育成を、地域の大学や支援機関、必要に応じて域外の機関とも連携して進めてきた。
  - ・創業ファンド、DTF研究会、地域シンクタンクを立ち上げ事業を進めている。
- ⑦自立分散型プラットフォームによる地域の担い手づくり〈匠の町しもすわあきないプロジェクト〉 [原講師]
  - ・製糸業や精密機械でにぎやかだった「下諏訪町」の賑わいを取り戻そうと考えた。
  - ・まちなかの商店街に商業者ではない「よそ者」を取り込み「ものづくり」を始めた。
  - ・空き店舗をものづくりの「場」として開くこと

を手作りで進め、出店者も自分たちで探し呼び込んだ。

- ・形が見えてくると自信にかわり、メンバーが緩やかなつながりで「自立分散型プラットフォーム」が構築される。
- ・次世代の担い手づくり、地域のブランド化を進め、「しもすわ」を幸福度ナンバーワンの街につくりあげたい。

#### 4) 後期研修の内容

- ① 受講者各自の地域課題の報告、問題意識、解決策などの報告

##### 〔テーマ1〕 地域産業の状況と課題

###### □ 各地域の抱える産業の状況および課題

- ・地域企業の連携・融合の推進を進めているが、コーディネータ人材不足。
- ・立地企業の縮小、撤退により雇用の減少（解雇、早期退職等）が発生。
- ・企業が少なく元々地域雇用は限られていて、今後は雇用の確保が必要。
- ・製造業は少なく、農業、観光産業であるが、需要の減少、高齢化により従業者が減少。

###### □ 望ましい地域産業の方向

- ・農業が重要産業で、新規就農者確保が重要。
- ・「地産地消」も市場が限られているため、地場産品の「ブランド化」が必要。
- ・観光産業はやる気のある業者を育成する方向に転換。
- ・地場産品の加工産業が期待される。

###### □ それに向けた対応方向

- ・独自技術（有機エレクトロニクス）を売りに、企業・人材の導入を図る。
- ・新たに産業導入を進める用地の確保の目途がつき、企業導入を推進する。

##### 〔テーマ2〕 地域の土地利用の状況と課題

###### □ 各地域の抱える土地利用の状況および課題

- ・既存工業用地の未利用地活用が課題、工業以外の可能性も考えているが難しい状況。
- ・新たな高速道路のICが予定されており、周辺開発が課題で、現在は開発協議にも入っておらず、産業導入等の活動にも未着手。
- ・産業用地が不足し、企業の立地意向に答えられない状況。

###### □ 望ましい土地路用の方向

- ・住宅地の高齢化が今後進むことが予想され、若年者の居住による住民の更新が必要で、そのためには、雇用の場の確保が必須。
- ・まとまった土地利用の可能性として、小中学校の跡地が候補であるが、課題も多い。

###### □ あらたな土地利用に向けた対応方向

- ・新たな産業導入に向けて、「産業拠点整備、事業推進」の部署を設置し計画を推進。
- ・限界集落発生への対応のため、集落移転によるコンパクトシティの可能性を検討。

#### ② テーマ別ワークショップによる研修

- ・〔テーマ1〕 地域産業の現状認識と対応方向
- ・〔テーマ2〕 地域の土地利用の現状認識と対応方向

上記のテーマごとに、研修参加者、講師、事務局メンバーによるブレインストーミングを行った。土地利用に関しては参加者の一自治体を具体的に取り上げ、都市計画図を広げて問題解決に関する討議を行った。

それぞれ、具体的な解決策の提示には至っていないが、ブレインストーミングによる双方向の意見交換、実際の地図を広げての土地利用の検討など、通常の業務では経験できないこととして、参加者からは有意義な経験と好評であった。